

	農学研究科 農学専攻 修士課程
DP	<p>農学研究科農学専攻修士課程は、本学の立学の精神及び研究科の人材養成目的に基づき以下の資質・能力を身に付け、修了に必要な30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格した学生に対して、修士（農学）の学位を授与します。</p> <p>①農学に関わる高度な専門知識と研究手法を身に付けるとともに、高い倫理観及び豊かな人間性を有している。</p> <p>②社会の持続的発展に寄与できる柔軟な思考力と問題解決能力を身に付けている。</p> <p>③研究成果を国内外に発信する能力を身に付けている。</p>
CP	<p>農学研究科農学専攻修士課程は、研究科の人材養成目的を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身に付けさせるため、専修分野を「栽培植物生産学」「遺伝学」「生物保護学」「生物資源経済学」「生命科学」「食品科学」「分子化学」「生物制御科学」「環境生物学」「物質動態学」「環境修復・応答学」「ランドスケープ・デザイン学」「フィールドサイエンス」の13分野に分け、コースワークとリサーチワークを適切に配置し、次の方針に基づいて教育課程を編成しています。</p> <p>①コースワークでは、講義・演習・実験・実習等を適切に組み合わせた授業を実施し、最新の科学に対応した専門分野及び関連分野の知識や技術を学ばせる。また、研究活動に必要な倫理科目を必修科目として配置し、学ばせる。</p> <p>②リサーチワークでは、指導教員が一貫かつ継続的で、個別的な研究指導を行う「特別演習」及び「特別実験」・「特別実習」の科目を設置し、研究発表、学術論文作成、修士論文作成等の指導を行う。この科目の履修を通して、専門技術者や研究者として必要な専門分野における研究能力と広い視野を有する能力を修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。</p> <p>③コースワーク・リサーチワークともに少人数・双方向の授業体制及び能動的学修を実施することにより、未解明の問題へのアプローチ法や科学的解析法・論理的思考法・論文作成法を学ぶ他、国際的なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>④シラバスにおいて指定した成績評価方法及び評価基準に基づき、厳格な成績評価と単位認定を行う。学位論文の審査については、農学研究科農学専攻の論文審査基準に基づき、客観性を担保し、厳格に審査する。また、指導教員が、学生の進路や関心に基づいた個別指導を行い、個々の達成度と学生自身の将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。</p>
AP	<p>農学研究科農学専攻修士課程は、研究科の人材養成目的を理解し、大学などにおける学修を通して、次の能力・態度を身に付けている人を受け入れます。</p> <p>①修士課程での学修の基盤となる生命科学、食料・健康科学、環境科学、科学英語などに関する専門知識と応用力を身に付けている。</p> <p>②生物資源・生物生産、生命現象・食品機能、あるいは生物環境・環境保全などを扱う総合科学である農学を学ぶことに強い関心や意欲を持っている。</p> <p>③課題探求活動に積極的に取り組み主体的、継続的、協調的に学修する力を身に付け、専門技術者や研究者として社会に貢献し続ける意欲を持っている。</p>